



太陽の子

さいたま市立常盤小学校だより
令和6年12月号（第9号）
令和6年11月29日発行

【学校教育目標】

心身ともに健康で 思いやりの心を持ち 主体的に学ぶ常盤っ子の育成

喜んで登校 満足して下校

【めざす児童像】

- よく考える子
- 思いやりのある子
- たくましい子
- かかわりあいを大切にする子

なわとびの魅力

校長 藤田 昌一

11月2日（土）の「ときわっ子コンサート」では、さいたま市文化センターの大ホールで、子どもたちが素晴らしい歌声と立派な楽器の演奏を披露してくれました。

また、11月16日（土）の「ときわっ子まつり」では、ペア学年で工夫したお店を、子どもたち自身が準備・運営し、お客として訪れた子どもたちも大いに楽しんでいました。

いずれも、本年度は95周年のお祝いを兼ねて実施しました。95周年記念行事の実行委員の皆様はもとより、PTAの役員の皆様、お手伝いをいただいた金管バンドの保護者の皆様、ボランティアとして参加いただいた保護者の皆様をはじめ、関係の皆様に改めて感謝申し上げます。

＊

さて、このところ冷え込む日も増え、いよいよ師走の訪れを感じるようになりました。学校の授業でも、長なわや短なわに取り組む子どもたちの姿が見られます。

本校のようなマンモス校、そして、決して広いとは言えない校庭において、寒い時期には、なわとびが最適だと思っています。下は、私が以前、教師向けに執筆した原稿です。

なわとびの魅力を子供達に！

3年近くコロナ禍での生活が続き、子供達の遊びや運動習慣に影響を及ぼしています。そのような中、今月の特集で取り上げるなわとび（特に短なわ）は、ソーシャルディスタンスを確保しながら、短時間にかかなりの運動量を確保することができます。これからの寒い時期にはもってこいの教材で、授業はもちろん、休み時間や放課後、家庭でも取り組みやすい運動です。

「短なわ」「長なわ」いずれも、跳び方や回数など、自分なりのめあてを明確に持ちやすく、意欲的な取組につながります。その結果として、リズム感、タイミング、手足や縄の動きの協調性などの運動感覚や身体操作能力を高めることができます。

また、「跳んだ回数を数える。」「回し方や跳び方を工夫する。（短なわ…二人跳び、長なわ…長短跳び等）」「友達が跳びやすいように縄を回す。」「タイミングよく声をかける。」など、仲間と協力し合い、助け合って運動する態度を育むことができる教材です。

さあ、なわとびの魅力を子供達にしっかりと味わわせていきましょう。それをきっかけに、なわとび（運動）好きな子供達を育み、豊かなスポーツライフの実現につなげていきましょう。そのためにも、我々は教師として、なわとびの指導法を知り、特に苦手な子供に対して適切に指導（支援、助言、励まし…）ができるようにしたいものです。

「楽しい体育の授業」 p.2 2022 12月 明治図書

私も12月に入ったら、業間の休み時間には可能な限り外に出て、子どもたちと一緒に縄跳びをしようと思っています。